

| 観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析 | 対 策 の 視 点 |
|--|--|
| <p>二、敬語を正しく使う</p> <p>正答率は50%台で、敬語についての理解はよいとは言えない。日常生活における言葉遣いの影響があるように思われる。</p> <p>誤答で目立つのは、例文の「なさいました㊦」に惑わされ、「言いましたか」、「来ましたか」と尋ねる言い方にしていることである。これは、問題の意味を正しくつかんでいないための誤りであろう。1.は56%、2.は53%である。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◦ 話し言葉指導の中で、丁寧語、尊敬語を身につけさせ、書き言葉にまで高めるようにしたい。 ◦ また、相手を尊敬する気持ちが言葉遣いに表れなければならないことをわからせることも大切であろう。 |
| <p>観点④（語句を書く）について</p> <p>観点の正答率（62%）と比べると、「敬語」についての正答率55%と低い。</p> <p>使用語句の範囲を広げるためには、国語の学習ではもちろんのこと、他の場においても語句の使い方について絶えず指導することが大切である。敬語の場合、特に話し合いの場における語句の使い方には十分な配慮が必要と思われる。</p> | |
| 観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析 | 対 策 の 視 点 |
| <p>⑤ 文・文章を読む</p> <p>一、段落の区切り、要点、段落相互の関係がわかる</p> <p>1. 段落の区切りがわかる</p> <p>正答率は29%と大変低く、誤答は「③の文の終わり」に集中している。「改行一字下げ」の教科書の形式に慣れきっているために、区切りがとられなかったものと思われる。</p> <p>2. 段落の要点がわかる</p> <p>正答率は69%とよい。誤答は③の文「漢字を使って文章を書くには…」に集中している。</p> <p>3. 段落相互の関係がわかる</p> <p>正答率は55%である。誤答は、「作文を書くには」に集中している。</p> <p>最初の文「作文を書いたとき…」、次の「文</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◦ 段落を構成している文と文の関係を押さえ、意味のまとまりをとらえさせるような指導が必要であろう。 ◦ 段落を要約する指導だけでなく、説明文の型などについても理解させ、結論の部分の的確にとらえられるようにしたい。また、「これらのこと」とは何を指すのかなど指示語の理解も大切であろう。 ◦ 一つ一つの段落の要点を押さえながら読み、それらのつながり方、文章全体との関連をよく考えさせるような指導をすすめたい。 |